

どこでもできるブナの豊凶予測手法

ブナはタネの豊凶が激しい樹種ですが、もし、翌年の結実を知ることができれば、タネの採取やかき起こしなどの作業計画が立てやすくなります。ここでは、翌年の豊凶を予測する方法を紹介します。

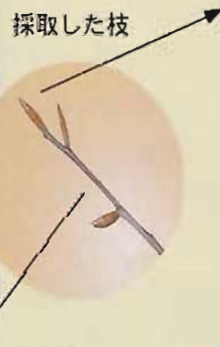
翌年にブナのタネが豊作になるには、1) 今年の花が咲かず、かつ、2) 翌年はたくさん咲く、という条件が必要です。ブナの花を食べる虫が介在しているために、この2つの条件がそろわないと豊作にはなりません。したがって、今年と翌年の花の多少がわかれば結実予測ができます。

具体的には、秋に目的の林分で枝を採取し、今年伸長した部分の雌花序痕（花が咲いた痕）と、枝先の花芽（翌年花が咲く芽）を調べます。ほとんどの枝で雌花序痕がみられず、しかも花芽の割合が、芽の30%を超えていた場合に、上の2条件が満たされ、来年は豊作になるだろうと予測されます。

(育林科)

①秋に枝を採取する

1個体あたり5～10本程度の枝（長さ50cm）を、5～10個体を目安にそれぞれ採取。樹冠のできるだけ高い部位（8m以上が良い）から取る。



②枝先の花芽を調べる

来年の開花を推定



来年咲く花芽は、咲かない花芽よりも太くて大きい

③当年伸長部位の雌花序痕を調べる

今年の開花を推定



咲かなかった枝には雌花序痕がない

④豊凶判定

ほとんどの枝に雌花序痕がなく、しかも30%以上の芽が花芽ならば、翌年は豊作になり、それ以外は並作か凶作になると考えられます。

北海道南部のブナ豊凶予報を、当場・道南支場のホームページにて公開していますので、ご利用ください (<http://www.hfri.bibai.hokkaido.jp/11donan/donan.htm>)。